



✿ まち歩きコース ✿

ウグワンモー ② → 宮城公園 ① →
 ナカヌカー ⑨・イーヌカー ⑧ →
 ウスクガー ③・ウミチムン ③ →
 デーコク ③ → アガリノウタキ ④ →
 ノロ殿内 ④・イーノウタキ ④ →
 ムラヤー ⑦

※数字はウラ面のマップ数字です。



散策のご参考に！



みやぐすく
宮城 MIYAGUSUKU PROFILE
 プロフィール



イラスト 西銘昌子

● 人口(男)……………553人
 (女)……………507人
 合計……………1,060人

● 世帯数……………418世帯

● 面積……………81.56ヘクタール

(2024年11月現在)



発行：南風原平和ガイドの会 (2012年)
 改訂：一般社団法人南風原町観光協会 (2024年)
 住所：沖縄県南風原町字本部 158
 電話：098-851-7273 FAX098-851-7109
 メール：chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp
 HP：https://www.haebaru-kankou.jp



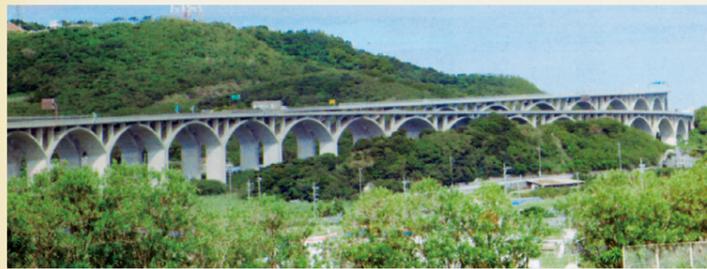
表紙：宮城公民館ホールの線画

一般社団法人

南風原町観光協会

羽衣伝説と綱腰きの
宮城
 MIYAGUSUKU

1 宮城公園 (みやぐすくこうえん)



アーチ橋

遊歩道、テニスコート、野球場、ストレッチや筋トレの健康器具、遊具などがある広ーい公園に遠くからも子どもたちが遊びに来ます。垂直に近い迫力満点の滑り台は大人気で、休日には賑やかな歓声が聞こえます。展望台から宮城全体が見渡せ、那覇空港自動車道のアーチ橋ものぞめます。



発刊時に掲載された写真



展望台

迫力満点!



改修された現在の遊具

2 御願毛 (ウグワンモー)

三本の松の木があったのでミーチマーチュ(三本松)とも呼ばれています。松の根元の二つの香炉は、一つは首里弁ヶ嶽のお通し、もう一つは糸満市大里の南山城に向けられています。戦前はノロを中心に祈願する大事な拝所でした。戦前の松の木は焼け、現在新しい松が成長しています。



3 御宿井 (ウスクガー)、ウミチムン、大国 (デーコク)

ウスクガー

デーコク



発刊時に掲載された写真



令和5年10月25日改修後の写真



発刊時に掲載された写真

「天女降臨伝説」で知られるウスクガー。そこに下りた天女をめぐらせたと伝承される旧家デーコク跡には、火神と神棚があります。またデーコクシー(大国子)ゆかりのカマド跡はウミチムンと呼ばれ、拝所になっています。*ロマンチックな羽衣伝説の詳しいお話は後ろのページに。

ウスクガーの発掘調査により、発見された石畳がおよそ 300 年前に作られたこと、そして改修しながら使用していた様子が確認できました。また、今から 500 年以前の「グスク時代」とよばれる時代におおむねあたる遺物包含層がみつかりました。

4 ノロ殿内、イーヌウタキ、アガリヌウタキ

イエーヌミー

廃藩置県後、ノロ制度は姿を消しましたが、宮城は戦後もしばらくノロがムラの祭祀を取り仕切りました。ノロ殿内(ヌドゥンチ)には火神と香炉が安置されています。丘の上の上之御嶽(イーヌウタキ)の祠(ほこら)には透明の玉が納めてあるといわれています。東之御嶽(アガリヌウタキ)は古井戸や古墓もあり、大切に拝まれています。

ノロ殿内



発刊時に掲載された写真



令和4年6月26日完成後の写真

7 ムラヤー

ムラヤーの鐘

ムラヤー(旧公民館)の鐘は戦後しばらくの間、集会のお知らせ等に使用されていました。現在は、毎年恒例の綱曳きの合図の鐘として使用されています。



力石・鉄棒

ムラヤーの前の広場は昔は青年たちが集まり、鉄棒や力石で力自慢、腕自慢する場所でした。3個あった力石ですが、今は1個しか残っていません。



6 綱曳き

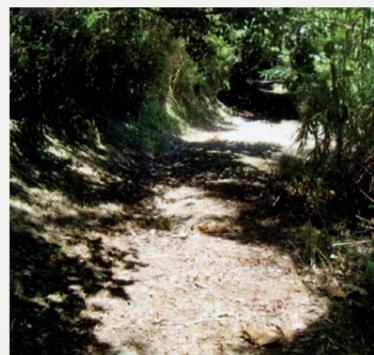
旧暦6月15日のウマチー綱と旧暦6月26日のウフジナ(大綱)が行われています。青年会を終えた若者衆(ワカムンジュウ)が主体となります。その中からカシラ(頭)6人とヒサグウー(小頭)6人が中心となってすすめます。

*詳しくは後ろのページを見てね。



5 イエーヌミー

集落の端の緑の小径を登っていく途中にあります。今帰仁へのお通しの拝所です。



はころも つなひ
羽衣伝説と綱曳きの

宮城 散歩道

戦前はあちらこちらにクミイ(池)やカー(井戸)があり、水の豊かな宮城。拝所も多く、行事のたびに人々は手を合わせました。その一つが、天女も降りてきたという羽衣伝説のウスクガー。天女が愛した、いにしへのムラの面影が残ります。



イラスト 西銘昌子

